

プラスチックごみ削減活動を通じた住民と観光客の持続可能な共存

活動地域  京都府

ひろげる助成

3年目

実践

アンケート回収数 **186**件

大学生リーダー数 **32**人

今年度計画の達成度 **30**%

目標達成度 **70**%

苦労した点と工夫した点

■ 苦労した点

新型コロナウイルス禍の影響で、活動の対象とした祇園祭での露店の出店が中止となり、当初計画した活動の実施が困難になった。

■ 工夫した点

祭りだけでなく通年の観光地も対象とし、活動内容も計画的な準備が必要なりユース食器から給水スポットも加えた。また、イベントやリーダー研修の一部をオンライン化した。



嵐山での給水スポット

課題

観光やお祭りでは、来訪者がもたらす環境負荷が高くなり、地域住民の負担が増すことで文化的にも持続可能性が危ぶまれている。

目標

- 祇園祭で、地域住民と観光客が協力してプラスチックごみ量が減少する
- 地域の文化と環境について住民や関係者の意識が高まる
- 継続的な仕組みができる

活動内容と成果

- 当初計画した祇園祭では、露店の出店が中止になったため、祇園祭でのリユース食器の導入から秋の紅葉シーズンでの嵐山商店街での仮設給水スポットの設置に変更した。合計5日間で約430人が給水し、そのうち186人分のアンケートを回収した
- 2025年開催の大阪・関西万博を見据えた講演会を企画したが中止となった
- 3年間の成果をまとめた報告書を作成した
- 祇園祭では、大学生を含めたリーダー研修を3回行い、大学生32人が祇園祭ごみゼロ大作戦の運営やボランティアの支援活動を行った



大学生リーダー研修



大学生リーダーの活動

全助成期間の活動を振り返って

1年目はほぼ計画通り活動でき、リーダー研修も継続できたが、2年目以降は新型コロナウイルスの影響で計画通りの活動実施が困難になった。もともと観光での課題をテーマとしたが、新型コロナウイルス禍で現実的な課題が変化したり、活動自体も制限が多くなった。しかし、京都において持続可能性を考える際、観光の要素が重要になるので、この活動で観光関係者や地域組織等との関係性や連携の実績が得られことが一つの成果であると考えている。

〒612-0031
京都府京都市伏見区深草池ノ内町13
電話：075-647-3535
E-mail：agenda@ma21f.jp
HP：https://keaa.or.jp/



今後の展望

新たな観光地のあり方について、別途京都市と進めている脱炭素ライフスタイル推進や再エネ普及についての事業の他、(公財) 京都文化交流コンベンションビューローとMICE施設の環境対策について調査を行う予定であり、その中で地域住民と観光客がともに関わる環境対策について検討していきたい。また、大学生などによる活動の担い手育成については、「京エコロジーセンター」指定管理業務等の中で広げたい。